

# NEW CROWN 授業実践事例

## BOOK 3 LESSON 4 授業例②

M.F. 先生

### 指導計画表

(全 11 時間)

時間	学習内容・主な活動
1	■とびら p.35 ・ Lesson 4 物語の背景確認
2	■GET p.36 ・ 文法の導入 ・ 語句・表現の導入 ・ 本文の導入・理解
3	■GET p.38 ・ 文法の導入 ・ 語句・表現の導入 ・ 本文の導入・理解
4	■Drill and Practice pp.36-37 ・ コミュニケーション活動
5	■Drill and Practice pp.38-39 ・ コミュニケーション活動
6	■USE Read pp.40-41 ・ 語句・表現の導入 ・ 本文の導入・理解
7	■USE Read pp.40-41 ・ 本文の理解
8	■USE Read pp.40-41 ・ 本文の感想・意見交換 ・ 折り鶴作成
9	■USE Listen ・ リスニング活動
10	■Use Write ・ ライティング活動
11	■LESSON 4 まとめ

中学校の英語教師になって 23 年目の半分が終わろうとしている。いくつかの出版社の教科書を扱ってきたが、私は *NEW CROWN* で扱っている題材が好きである。

特に 3 年生では、世界を身近に感じ、書かれている内容についてどう思うか、と考えさせるような題材が多い。佐々木禎子さん、キング牧師、ケビン・カーターを扱った 3 つは、今までの私のお気に入りである。私自身、世界史が（英語よりも）得意なこともあり、こぼれ話も多くなる。きっと生徒の記憶には、こぼれ話の方が多く残っていくのだろう。

*NEW CROWN* Book 3 LESSON 4 では、やはり平和について考えさせたい。そのためには、戦争についても少しばかりの説明が必要であり、それは個人的な見解に偏ってはならないと考える。物語の背景を客観的に認識しておくことは、我々教師の準備である。

LESSON 4 で取り扱う文法事項は GET、特に Drill と Practice を活用して、基礎・基本を習得させる。4 技能のどれも均等に扱うが、Speak におけるコミュニケーション活動ができることを目標として、学習を積み重ねていく。

私は普通の授業の中で、生徒が「わかった、できた」と感じることを大切にしている。小さな成功体験を積むことが次につながる、と考えるからである。クラスの中には、英語が得意な生徒もいれば、苦手な生徒もいる。それは当然のことである。しかし、誰もがわかり、できることがあれば、少し難しいことにもチャレンジしようとするのではないだろうか。道具にユニバーサルデザインがあるのなら、授業にもユニバーサルデザインがあって良い、と私は思う。準備する教材やワークシート、教師の発問、と小さな成功を与えられる場面はたくさんある。私は、生徒に「わかるから楽しい。」と言われる授業を実践していきたい。

## 実践例

### 1. The Story of Sadako

中学校3年生にもなると、日本の歴史や日本と世界とのつながりを学習し、それなりの背景知識がある。この題材が3年生の教科書に掲載され、概ね7月に学習されることは、生徒にとっても大きな意義がある、と私は思う。

LESSON 4における学習は、文法の習得のみならず、平和について深く考えることができる絶好の機会である。またデリケートな題材でもあるが、LESSON全体を通して、教師の裁量で幅広い活動を扱うこともできる。本校でもおこなったが、鶴を折った生徒も多いのではないだろうか。また私の場合、全校生徒に考えてほしいと考え、広島平和記念資料館から佐々木禎子さんの展示ポスターをお借りし、生徒玄関に展示した。

さて、LESSON 4の最初の授業において、教科書 p.35のタイトルを確認し、写真について知っていることを日本語で発表してもらったところ、佐々木禎子さんのことを知っているのは、各クラス2~3人程度であった。また土地柄からか、広島平和記念資料館を訪れたことのある生徒も少数であった。

戦争や原子爆弾についての漠然とした理解や、歴史上の知識はあるが、現実のこととしてとらえるのは当然難しい。生徒たちと同世代の禎子さんの物語を通して、現代に生きる自分と照らし合わせ、「平和」に対する自分の意見を持ってほしいと考えた。

### 2. GET と USE Read

各 LESSON の GET と USE Read について、私は次のように考え、授業を進めている。

- (1) GET は「基礎・基本を習得する」ことを目標とする。本文の文法事項を説明し、Drill と Practice を通して定着をはかる。
- (2) USE Read は英字新聞や英語で書かれた雑誌等と同種ととらえ、「大意を把握する」ことを目標とする。文法事項の説明は最小限に抑さえる。

この2点を達成するためには、自作のワークシートが欠かせない。作成においては Teacher's Manual 付属の CD-ROM を活用している。LESSON 4 の指導計画は前頁の通りである。

### 3. Drill and Practice

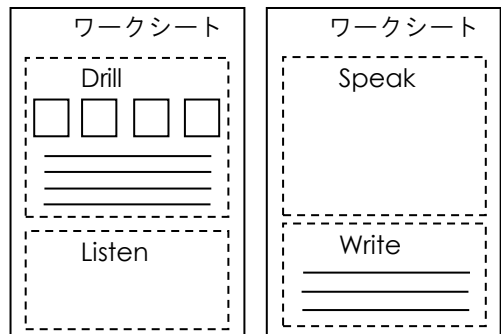
Drill と Practice が1時間の授業で完結するように次のような時間配分で進めている。

10分	Drill
5~10分	Practice - Listen
15分	Speak
5~10分	Write

1時間で完成する1枚のワークシートを作成している(次ページ参照)。基本的には、教科書の Drill と Practice をベースにしている。3年生のワークシートの設問は、Listen and fill in the blanks. という風に英語で書かれている。何度も試行錯誤を繰り返しこの形になったが、より良いワークシートの形は、現在も模索中である。また、このワークシートを使う授業では、私自身も英語で説明したり、発問したりするように努めている。このワークシートは評価の材料となるが、「何につまずいている」のか、生徒の到達度を確認することもできる。

#### (1) Drill

Drill の学習では、絵について自分の知っている英語で説明できることを目標としている。そのため、単に繰り返すのではなく、いくつかの工夫を試みている。教科書 p.38 の Drill では It ~ for A to... 構文を学習する。最初に文法事項を確認し板書する。



## ① Listen

次に、絵を見て使われるであろうフレーズを予想する。生徒からは read books, play baseball (模範 CD は practice baseball), use a computer 等のおなじみのフレーズが出てくる。この時点ではまだ英文は聞いていない。その後「何を聞き取るのか」を指示してから模範 CD を 2 回聞く。1 回目は、to... の部分を聞き、自分たちの予想した英語と合っているか、異なる場合は何と言っていたのか、2 回目は、It's~ の部分を聞き、使われている形容詞は何なのか、を確認させる。この時、生徒はメモをとることはできない。簡単な英文に対して、しつこい Listening ではあるが、「英文のかたまり」(It ~ for A to... の 3 つのかたまり)を意識させ、この後の Repeat and Say の学習につなげる。

## ② Repeat and Say

本来ならば模範 CD を聞いて、繰り返すのであろうが、そうすると生徒はただ単純に繰り返してしまう。そのため、1 度聞いた後、あえて英文は聞かせない。その代わりに Listen で聞き取った「かたまり」を意識させると、生徒は絵を見て、考えながら英文を言うようになる。個人で練習した後、隣の生徒に絵をさしてもらい、英文を言う。ここまで黒板には、最初に確認した文法事項しか書かれていない。

## ③ Write

十分に練習をしてから、英文を書かせる。生徒が「わかった、できた」と感じる事が大切なので、スペルに自信がない場合には、教科書で確認してもよい。答えを黒板に書き、ミスしやすい単語のスペルも確認する。以上で Drill は終了する。

## (2) Practice

次に Practie の学習に入る。現在の教科書になる前は、Listening や Activity の準備が大変であった。4 技能を充実させる Listening や Activity がふんだんに用意されているのはありがたいことである。

## ① Listen

リスニングにおいて、特に工夫はしていないが、「何を聞き取るのか」は、事前に確認するようにし

ている。また答えを確認するときには、次のように簡単な英語で発問し、答えさせる。

T : What's difficult for Miki?

S : It's difficult for Miki to read English.

T : How about Kota? What's difficult for him?

S : It's difficult for Kota to listen to English.

Listen では、先の Drill で確認した表現が使われている。またこの Listen で確認した表現が次の Speak の Activity でも使われているので、It~ for A to... 構文を十分に確認し、次につなげていく。

## ② Speak

Speak では、生徒同士のコミュニケーション活動を重視している。教科書の activity をそのまま使うこともあれば、アレンジしたり、全く異なるものを使用することもある。どのような Activity であっても、会話をするための必然性が必要であり、そのため場面設定が重要であると考えている。

教科書 p.39 では、「勉強していて」と場面が限定されている。学校の授業を思い浮かべて、と補足すると、生徒からは次のような解答があった。

It's fun for me to cook.

It's difficult for me to write kanji.

It's easy for me to calculate.

当然のことながら、自分の情報をきちんと表現できないと最後の Interview が成立しない。ここでも、「英文のかたまり」(It's ~, for ~, to~ の 3 つ)を意識させ、個人練習、ペア練習、そして最後にクラス全体の Interview 活動へとつなげる。

Interview 活動では誰と会話しても良いが、日本語は話せない。生徒は、ジェスチャーを使ったり、Pardon? / How do you spell? を繰り返しながら何とか会話を進めている。簡単なつなぎ言葉を使ったりする生徒もいる。1 年生からの積み重ねが実を結んでいると実感できる場面である。

余談になるが、普段のクラスの雰囲気や Activity の成否に大きく関わるといった意見をよく聞く。それも事実ではある。しかし、私は英語の Activity を通して、普段のクラスの雰囲気を作ることもできる、と考えている。

## ③ Write

Interview 活動で得た情報を英文にまとめる。この write は、「外国語表現の能力」の評価材料とな

る。It~ for- to... 構文の理解を評価対象としているので、スペルに自信がない場合には、教科書で確認しても良い。先にも述べたが、生徒が「わかった、できた」と感じる事が大切であり、できるだけA評価でワークシートを返却したいと考えている。

このように、Drill と Practice を1時間の中で学習するという方法を1年生後半からおこなっている。1時間の学習内容が1枚のワークシートにまとまっていることが、生徒の安心につながっているようである。また、生徒にとっても我々教師にとっても「続けていくこと」が大切であり、1年生からの積み重ねが、現在のコミュニケーション活動の成立につながっていると感じている。

#### 4. USE Read

LESSON 4 USE Read の学習について簡単に説明したい。USE Read では、文法事項の説明は最小限に押さえ、大意の把握を重視している。いろいろと取り組んでみたが、英語を苦手とする生徒でも

「Read の内容がわかること」を重視すると、空所補充の日本語訳が適しているように感じる。また、内容に関する質問 (In-Reading) は、日本語から英語へと難易度を上げている。生徒にとって正しい英文で答えを書くことは、やはり負担が大きい。目標を大意把握としているので、英問英答にもあまりこだわっていない。日本語の質問であれば、多くの生徒が答えることができる。生徒が「わかった、できた」と感じる小さな達成感が、長文への取り組み方を変えるのではないだろうか。

「自分たちと同世代」である禎子さんの物語を読み終えて、Try の質問に対する自分の意見をワークシートに書いてもらった。「もし自分だったら…」と書く生徒が多く、LESSON 4 の学習を通して、平和について少しは深く感じる事ができたか、と感じている。また、クラスで意見を共有したいと考え、次のような活動をおこなった。

- ①4人グループで各自の意見を発表する。
- ②みんなの意見を参考にして、グループの意見を「ひと言」にまとめる。
- ③各グループの意見を黒板に書き、なぜその「ひと言」になったのかを説明する。

④意見を聞いて、クラスの「ひと言」を決定する。

各クラスで9つの「ひと言」が板書されるが、「絶望」「あきらめ」「なぜ?」「希望」「夢」など、ほとんどが異なる意見であり、グループで真剣に話し合った結果だと感心した。私としては、「生きたい」という意見を引き出したかったのであるが、どのクラスでも「生きたい」「生きる」という意見を聞くことができた。最後にクラスの「ひと言」になったのは、(各クラスで異なるが)やはり「希望」「夢」そして「生きる」であった。

#### 5. 最後に

私は、生徒が「わかった、できた」と感じることを大切に毎時間の授業をおこなっている。残念ながら英語が苦手になってしまったとしても、英語は楽しいと生徒たちに感じてもらいたい。そのためにも小さな達成感を与えられるような授業をこれからも展開していきたい。